市川三郷町大木地区（大木圃場整備土地利用検討委員会）　概要

1　地区の概要

■市川三郷町は山梨県の中央部に位置し、人口は約17,900人。高齢化率は29.4%(平成17年)
■市川三郷町から甲府まで**約15km**、東京まで**約120km**の位置にある。
■対象である大木地区は、市川三郷町の中心地である旧市川大門町の南西に位置し、**車で**15**分程度。**
■大木地区の**人口は**112**人**、41**世帯**（平成21年）**。**
■花火と和紙で有名。
■最寄りの鰍沢口駅は中央リニア新幹線の山梨県内新駅の候補地である。

資料：市川三郷町HPを基に作成

2　現状と課題

■市川三郷町は旧市川大門町と旧三珠町、旧六郷町が平成17年に市町村合併して誕生。
■大木地区は旧市川大門町のはずれに位置し、富士川沿いの台地上に立地する。町の中心部から大木地区へのアクセス道路は、隣接する鰍沢町を経由しなければならない形状になっている。
■町全体と同様、大木地区も人口及び世帯数が減少傾向にある。住民のほとんどは自給自足の兼業農家で、甲府やその周辺の工場等で働く人や公務員が多い。
■大木地区には花火工場と県警のヘリポートがあり、小学校の遠足ルートにもなっているが、それぐらいしか交流資源がない。
■大木地区の人口流出を防ぐためには、地域の基盤として農業を振興することが必要と考え、平成21年度の完成を目標に圃場（面積約5ha）の整備を行っている。農業を振興することで、就業の場をつくり、さらには、廃校舎の活用によって農業加工の場や農業体験の場を設けることを期待している。

3　取り組みの現状

■これまでは県警のヘリポートを誘致したぐらいで、特段の地域活性化の取り組みは行っていなかった。
■圃場の整備に際して、大木圃場整備土地利用検討委員会が設立され、今後の耕作意向について調査を実施しているところである。

4　今年度の検討手順

検討会議	検討内容案
第1回検討会議 2009.9.17	■圃場利用意向調査を踏まえた将来ビジョン共有 ■地域の現状と課題
第2回検討会議 2009.12.4	■須玉町「おいしい学校」視察 ■指定管理者法人へのヒアリング
第3回検討会議 2009.12.7	■着地型観光関連アドバイザー（井門隆夫氏）による講義 ■地域資源（圃場）を活用した地域活性化方向性 ■大木地区の将来像、地域活性化計画の内容について協議
第4回検討会議 2010.1.21	■地域活性化計画（案）の提示 ■地域活性化計画の内容について協議

5　将来像実現に向けて活動主体が求める情報

■圃場の有効活用方策
■農業振興と連携した廃校舎の活用事例
■地区における集客交流拠点の立地可能性

【アドバイザー】
■観光農園プランナー？廃校再生専門家？

【事例視察】
■現時点で特に視察の希望はない

6　拠点施設の状況と活用可能性

◆廃校になった旧市川南分校

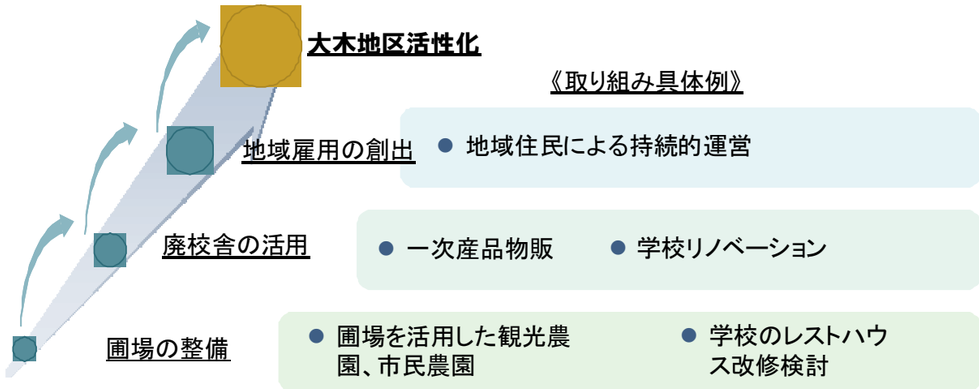
■平成14年3月に廃校（現在は一部地域住民に開放）
■昭和31年に竣工した木造校舎
■床面積は210㎡で、耐震改修済み
※学校の詳細は、別紙

課題として

■圃場の整備動向が不透明
■規模が小さいので導入機能に制約あり
■老朽化が著しいので、転用する際は大規模な改修が必要

◆圃場（整備中）

7　活動主体がイメージする将来像



●当面の課題●
■圃場における農地貸し付け、農業体験事業実施の可能性の検討
■圃場整備の内容に応じた廃校舎の活用方策（導入機能）の検討
■導入機能に応じた廃校舎の活用可能性の検討